



岐阜陸上競技協会広報

第4号

平成29年5月1日発行

一般財団法人 岐阜陸上競技協会

事務所／〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA102

TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491

E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp



「2016年度を振り返って」

会 長 田 口 利 正

最高の朗報は“高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン大会”が国際陸連最高位“ゴールドラベル”にランクされた事でしょう。ハーフマラソンでは日本でただ一つであり、岐阜を世界に発信する大きなチャンスを高橋尚子大会会長が与えて下さったと感謝すると共に、古田知事さんを中心に県・陸協関係者全員が目標に向かって努力してきた好結果と誇りに思いましょう。

もう一つは“70周年記念式典”を終え、新たな一步を踏み始めた事でしょう。70年前に諸先輩が苦勞を重ねられ、岐阜の陸上競技の発展と戦後の混乱期に青少年の健全育成を大きな目標とされた事でしょう。今我々がその意志と伝統を先輩に教わり、学び、後輩に伝える為、先輩との絆を強固にする事が大切でしょう!残念ながら私は、我が信条“ボランティアの長は名誉職ではない、自ら率先推範行動すべし”とは反対に健康を害し、諸大会に出席できたものの、その活力を発揮出来なかった事を申し訳なく残念に思っております。今は元氣ですが!

人として“健全な精神、健全な肉体”がいかに大切か、更に岐阜陸協も同じで、良い選手の育成と健全財政の大切さを!日本陸連もオリンピックで金を取る為の個人的特別強化を今スタートさせ、一方他競技に負けない魅力ある競技にすべし検討を始めました。その意味で各県、地区の陸協が“新たな政策”のもと共存共栄し、陸上競技発展の為努力すべきでしょう。

新体制にバトンタッチし、大きな成果を期待します。みんなで頑張りましょう!



「2016年度を振り返る」

専務理事 黄 倉 寿 雄

リオオリンピックと陸協創立70周年

2016年度は日本のスポーツ界がリオオリンピックに沸いた一年でした。世界の陸上競技のレベルが向上する中、日本選手団がよく健闘してくれました。その中でも、男子4×100mリレーにおいて日本チームが世界王者ジャマイカチームに肉薄する銀メダルを実力で獲得したことは陸上競技関係者にとって2020年東京オリンピックへの夢と希望と自信を抱かせるに十分な快挙であったと思います。この快挙の瞬間を見た小学生、中学生を核とするジュニア世代の選手が大きな夢を抱き日本陸上界を世界に導いてくれることを期待したいと思います。

2016年、岐阜陸協は創立70周年を迎えました。7月の岐阜県選手権2日目に岐阜都ホテルにおいて記念式典を挙行いたしました。日本陸連から山崎ジュニア強化部長のご臨席を賜り、2012年ぎふ清流国体にご支援いただきました県内外企業及び陸上競技関係者約200人の参加を賜り開催できたことに厚くお礼申し上げます。大野つや子名誉会長からさらなる発展をするためには若い世代の力が必要であるとの激励の言葉もいただき陸上競技はもちろん岐阜県のスポーツ振興を担う本協会の使命をあらためて痛感する思いでした。

活躍した岐阜県選手

競技結果について振り返ると、岩手国体天皇杯15位、皇后杯14位。男女都道府対抗駅伝では男子(天皇杯)23位、女子(皇后杯)24位という成績でした。全国的な競技力の結果を検討する際に各都道府県の人口順位を参考にすることがあります。人口が多ければ競技者数も多く競技レベルの頂点が高くなるという考え方です。国体の成績をみると上位チームにこの条件が共通する傾向にあります。岐阜県は人口では全国17位、したがっていわて国体成績はぎふ清流国体以降も中高生とふるさと選手の戦力を持続していると考えられます。ぎふ清流国体の成果の一つに県内ジュニア選手の強化が挙げられます。井戸アビゲイル風香選手(美濃加茂西中)が全日本中学選



リオオリンピック
男子4×100mR銀メダルレース使用バトン

手権・いわて国体少年B100m優勝、伊藤有那選手(県岐阜商)インターハイ100m2位・いわて国体少年A100m3位に入賞、山下航生選手(市岐阜商)いわて国体少年B砲丸投げ2位・日本ユース砲丸投げ優勝などに代表される岐阜県ジュニア選手の活躍はまさにその一例といえるでしょう。大学生では、女子競歩界で活躍している五藤怜奈選手(中部学院大)は大学選手権・大学個人選手権共に3連覇を達成、世界競歩チーム選手権日本代表として活躍するなどその実力は、2020年東京オリンピックに最も近い岐阜県選手といっても過言ではないと思います。今後の活躍が益々期待されるところです。

県民の関心も高い男女都道府県駅伝については男子(天皇杯)5位、女子(皇后杯)13位が過去最高成績ですが中々この結果を上回ることができず足踏みをしているように思えます。中高生時代にこの駅伝を経験し育った実業団、大学で活躍している岐阜県選手は年々増加しています。その選手たちの共通していることは岐阜愛をどの選手からも強く感じることです。ふるさと選手として活躍を一つの夢として岐阜県の中高生の活躍を期待しています。その気持ちには本当に頭が下がる思いです。県内に実業団チームを持たない岐阜県チームは苦戦を強いられることが多いのですが現在の戦力を維持できるのは彼らの存在があるからこそなのです。県内の中高生の戦力は決して低くはありませんが全国レベルで戦える選手層が薄いことは否めません。全国高校駅伝では土岐商業の活躍が話題を呼びました。また、全国小学生クロスカントリーではぎふ清流チームが昨年に続き6位入賞と健闘してくれました。これらの結果は岐阜の駅伝は底力をしめています。全国での上位入賞は決して夢ではないと確信しています。各チームの監督さんをはじめ支援いただきました関係者の皆さんにお礼を申し上げるとともに全国を意識した指導協力に期待したいと思います。

小学生大会の実施

2016年度から中日新聞社の後援を受けて小学生陸上競技選手権大会を発足しました。従来のジュニア地区対抗陸上競技大会の趣旨である陸上競技の普及目的を発展させるため低学年からの参加を可能にしてタレント発掘学年を拡大させました。第1回大会にもかかわらず県下全域から予想を上回る約1000名の選手の参加があり小学生指導者と保護者の参加意欲を感じ取ることができました。第2回大会以降も参加した選手に陸上競技への興味と関心を掻き立てる企画を工夫し、発展させることが将来の岐阜陸協所属ジュニア選手の活躍につながると大会に成長させていきたいと思っています。

ゴールドラベル認定

毎年5月に開催されている高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンも6回の開催を数える大会となりマラソンを目指す世界のトップランナーの走りは岐阜のファンのみならず全国からも注目を集めるまでに成長してきました。第6回大会女子優勝のキルワ選手(バーレン)がリオオリンピック女子マラソンで銀メダルに輝いたことは「高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」関係者にとっても嬉しいかぎりのニュースでした。さらにリオオリンピック終了の翌月にはIAAF(世界陸連)から「高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」をハーフマラソンとして日本で初めてのゴールドラベルに認定すると朗報が入り2017年の第7回大会からゴールドラベル大会となることが決定しました。主催者の一角を担う岐阜陸協の責任もより一層大きくなりますが、中日新聞社、岐阜県、関係機関と協力をしながら運営にあたりたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

メディアの参加

第7回ぎふ清流郡市対抗駅伝は念願のメディア参加の大会となりました。映像による競技の紹介はファンならずとも興味を高めるものです。第7回大会は地元ケーブルテレビCCN社の協力を得ての大会となりました。CCN系列で放映され好評を博した大会となりました。レースは土岐商業を擁する土岐市の圧勝となりました。今後も、より参加しやすくランナーも応援する人も楽しめる大会に向けてコースの改善をも視野に入れ県民の秋の駅伝競走大会として確立できるよう岐阜県、協賛企業とも連携を密にして取り組みたいと思います。

今後の陸協のあり方

2016年度の理事会においてしばしば岐阜陸協法人化4年を迎え運営と経営について意見交換がなされました。多くの会員が選手の指導者兼ねているのが私たち岐阜陸協組織の特徴です。活動は選手ファーストでなければなりません。陸協全体を見て活動の方向を見出すことは重要です。陸協関係者一人ひとりがそのような視点に立って陸上競技に携わる意識が必要であると思います。選手を育てる岐阜陸協としてのチームワークを全ての協会会員にご理解いただきご意見をいただきたいと思っています。

岐阜の長良川競技場で大会開催を望む声を県外の競技団体からいただく機会が増えています。「主競技場と補助競技場が近く選手にとって使いやすい。審判役員が選手に対して友好的で競技しやすい。全国的に派遣距離が平均的で経済的に利用しやすい。風光明媚な環境にある」が主な理由です。また、全国大会を控えた県から競技場改修にあたり岐阜県の長良川競技場のコンパクトさを見本にしたという意見もいただきました。全国から見られていると実感しながらも、来県される多くの選手役員に岐阜で競技会を経験できてよかったと感じていただけるように審判技術・技量、大会運営力のさらなる向上を目指したいと思っています。

最後になりましたが2017年度も東海選手権をはじめ多くの大会を開催、運営していかなければなりません。2018年にはアジアジュニア陸上競技選手権を6月に開催する計画も進行中です。2017年度以降も、協会員皆様の益々のご協力ご支援をお願いしたいと思っています。

専門委員会報告

総務委員会

平成28年度は岐阜陸協創立70周年記念行事をはじめ、第1回小学生選手権大会の実施、記念Tシャツの販売等に取り組んできました。

29年度は「高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」がゴールドラベルを取得して初めての大会運営となります。また岐阜県初の国際大会第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会(2018年6月)開催に向けての準備がはじまります。皆様と力を合わせより良いものを作り上げていきたいと考えております。ご意見等ありましたら総務委員長までご連絡ください。

平成28年度 栄章受章者 紹介

栄章委員会(敬称略・順不同)

○公益財団法人日本陸上競技連盟表彰		
高校優秀指導者章	堀江 俊男(美濃加茂高教)	平成29年国体にて表彰
中学優秀指導者章	岸 栄二(美濃加茂東中教)	平成29年国体にて表彰
高校優秀選手章	伊藤 有那(原岐阜商高)	平成29年岐阜県選手権にて表彰
中学優秀選手賞	井戸アビゲイル風果(美濃加茂西中)	平成29年岐阜県選手権にて表彰
○安藤百福記念章	山田 茂樹(関陸上クラブ)	全国小学生陸上競技交流大会にて表彰
○一般財団法人岐阜陸上競技協会 栄章		
功 勞 章	松浦 正泰(岐阜陸協)	河島 正弘(岐阜教員クラブ岐阜)
(一財)岐阜陸協	若園 毅(若駒クラブ岐阜)	今井 哲(岐阜教員クラブ岐阜)
創立70周年記念	三輪 二郎(大垣陸友クラブ)	岩間 基(大垣陸友クラブ)
	上野 和重(郡上走友)	加藤 昭久(土岐走友)
	押谷 重昭(多治見走友)	川上 登(高山陸上競技協会)
	塚中 一成(下呂陸上クラブ)	熊崎 稔(下呂陸上クラブ)
勲 功 章	山下航生(1)(市岐阜商高)	市野泰地(4)(岐阜経済大)
小 倉 章	山下航生(1)(市岐阜商高)	井戸アビゲイル風果(3)(美濃加茂西中)
加 藤 章	伊藤有那(3)(原岐阜商高)	赤松諒一(3)(岐阜大)
	五藤怜奈(3)(中部学院大)	間宮里菜(3)(中京大)
	市野泰地(4)(岐阜経済大)	八木葵衣(3)(原岐阜商高)
	齋藤文孝(SELECT)	岩船 陽一(サンメッセ)
田 口 章	岐阜市立島中/村木俊亮(3)	藤井天佑(3)
	萩野樹平(3)	木野創介(3)
	大垣市立東中/後藤里奈(1)	鈴木香乃(3)
	川瀬末祐(3)	中迫佳穂子(2)
記 念 章	山下航生(1)(市岐阜商高)	稲福 颯(2)(市岐阜商高)
	伊藤有那(3)(原岐阜商高)	井戸アビゲイル風果(3)(美濃加茂西中)
	森澤翔尉(3)(坂本中)	
新 記 録 章	市野泰地(4)(岐阜経済大)	河村一輝(1)(明治大)
	水野佑哉(2)(岐阜経済大)	齋藤文孝(SELECT)
	五藤怜奈(3)(中部学院大)	

3月4日(土)に岐阜陸協栄章授章式がスポーツプラザ大会議室にて行われました。



(委員長 藤村 純子)

財務委員会

最近、競技会の様子を見ていると、小学生の大会参加の増加により、その応援にみえるご家族の来場も多く、明るい声援や、競技記録掲示板を見て歓喜する声ににぎやかさを感じます。一般選手や高校生、中学生の大会においても、陸協のTシャツを着て競技場を走り回り、選手を応援する元気な姿を多く見かけ、我々審判員も心とむ中で大会運営をしています。岐阜県の陸上競技に欠かせない若い世代の人たちが、興味・関心をもって陸上競技場に足を運んでくださることにたいへん嬉しく思います。私達大人は、その輝いた眼を大切に、指導、支援していくことを心掛けていくべきであると痛感いたします。

競技環境を少しでも向上させていくためにも、財政支援による事業の充実を図り、岐阜の陸上競技の発展に繋げていきたいと思っています。

今後も、個人、団体、企業における支援のための協賛広告、バナー広告等にご賛同いただけることを願います。ご質問等に関しましては、岐阜陸協事務所に連絡ください。

なお、今年度70周年を迎え、記念のピンバッジを作りました。1個700円で販売しております。ワンポイントのお洒落としても、スーツや、帽子、鞆にと様々な場所に装着可能なピンバッジです。ご用命の方は、各大会時、プログラム販売受付にてお申し付けください。

今後とも、ご支援、ご協力、お願いいたします。



(委員長 奈波 宏和)

審判委員会

2016年度を振り返って

1.はじめに

2016年度も4月から例年と同じように毎週、県内各競技場にて競技会・記録会がありましたが、どの競技会も大きなトラブルもなく無事開催することができました。毎週のように審判依頼はがきが届け、年間30日以上参加してくださる方もみえ、競技審判員として支えていただき、ありがとうございます。

全国的に審判員の高齢化が心配される中、岐阜県も確かに高齢化はしていますが、着実に若い審判員も増えてきています。2017年度に向け、新たにB級公認審判員として49名の方が取得していただきました。今後もベテランの方と若い方が一つになり「チーム岐阜」として取り組んでいきたいです。

2.充実した岐阜県の審判員!

岐阜陸上競技協会としては、2016年度は日本陸連が主催するような大きな大会の開催はありませんでした。東海関係では、東海高校総体、東海高校駅伝大会という東海レベルの大会を無事開催することができました。この大会に向けて、特別な準備をしてきたわけではありません。日頃の審判活動の一つとして取り組み、確実な審判活動を行うことができ、高い評価を受けることができました。どの部署も主任やベテランから若い審判員に的確な指示や競技の見方(ジャッジの仕方)が伝えられ、審判技術の向上が図られています。

高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンは、6回目を開催しました。1万人を超えるランナーを迎え、日本を代表する市民参加型のマラソン大会にすることができました。大勢のランナーを無事スタートさせるだけでなく、走路員、給水・配給物、関門などすべての部署で、競技者が気持ちよくフィニッシュできるように運営できています。これは岐阜陸協審判員の方の「よい大会にしたい。」という気持ちの表れだと思います。こういった思いが、本大会が世界陸上競技連盟 (IAAF) 認定ゴールドラベル取得に結び付いたのだと思います。ありがとうございます。

3.国際化に向けて

2017年度も道路競技を除き全日本レベルの大会は岐阜では予定されていません。しかし、2018年6月にアジアジュニア選手権を控えています。また、2017度に向けて、大きな競技規則の変更はありませんが、より国際化を意識した活動に変わっていきます。今まで国内適用だったことも国際ルールに合わせていく内容も増えてきています。

日本陸連は、アジアジュニア選手権を東京オリンピック・パラリンピックの審判員の研修大会に指定しています。日本陸連から多くの審判員が研修のために岐阜に来ることになり、私たちと一緒に審判活動をしします。また、アジアジュニア選手権は国際大会ですので、ITOをはじめ国際審判員が指揮を執ります。国際審判員や日本陸連からの審判員 (JTO) の前でも立派に競技運営ができる岐阜陸上競技協会をアピールしていきたいです。そのための第1歩として、アジアジュニア選手権の準備を兼ねて、まずは8月下旬の東海選手権に向けて、各部署連携を取り合って、スムーズな運営、競技者が競いやすい競技会運営を目指していきます。

(委員長 脇田 篤実)

競技委員会

平成28年度は岐阜陸協が主催する20の競技会運営と、その他16の競技会において運営協力を行いました。

主催競技会では25,576人・72チームの参加者 (27年度21競技会21,750人・70チーム) を数え、競技力向上・自己記録更新に向けた選手を運営面からバックアップしました。昨年度に比べて参加者数が増加した要因としては、1.11月3日に秋季記録会を新設したこと、2.通信陸上で昨年実施できなかった100m記録会を今年度実施できたこと、3.普及記録会の浸透と他県からのエントリーが増加したことなどが考えられます。来年度もこれらの記録会の充実と、各競技会での実施種目や参加制限などを見直し、さらに多くの選手が参加できるように工夫していきたいと考えております。

運営協力した競技会では、6月17日～19日東海高等学校総合体育大会、11月27日東海高等学校駅伝競走大会の2大会が開催規模も大きく、特に6月は全国大会の予選会ということで主管団体としてミスの許されない運営が求められる場面でしたが、清流国体や昨年度運営した全国規模の大会運営で培った審判技術・運営力のおかげで大きなトラブルなく円滑な運営ができました。平成30年には国際大会 (アジアジュニア選手権) が開催されます。さらなる向上を目指して取り組みたいと思います。

今年度からスタートした小学生登録に関連して、第1回となる小学生選手権 (参加948人) の実施や、記録会 (参加3記録会計800人) に小学生種目を実施し、多くの参加小学生に陸上競技を楽しんでもらうことができました。来年度は1年生からの登録となります。普及委員会・強化委員会と連携をとり、タレント発掘・育成の場としても発展させていきたいと考えています。

29年度も皆様からのご意見を参考にしながら、競技力向上はもちろんのこと会員の皆様に陸上競技を「楽しんでもらえること」を目標に、よりよい競技会運営に取り組んでいきたいと思っています。

〈平成28年度 競技委員会事業報告書〉

No.	期 日	場 所	事 業 名	規模 (参加者数)						事 業 内 容
				一般	大学	高校	中学	小学	計	
1	4月 2日 (土)	長良川	岐阜陸協普及記録会①	26	29	492	249	149	945	昨年度までの100m・フィールド記録会を発展させ、普及記録会として小学生種目を加えてメイン競技場にて実施した。
2	4月10日 (日)	星ヶ台	岐阜県春季陸上競技記録会	14	0	645	648		1307	多くの選手が参加できるよう例年通り2会場で開催。中学男子6種目、女子5種目、一般高校男女各9種目、共通男女各2種目で実施した。
		長良川	兼第71回岩手国体選手権大会①	45	19	621	840		1525	
3	4月16日 (土)	長良川	第9回澤田文吉記念棒高跳競技会 第37回岐阜県春季陸上競技大会 兼第71回岩手国体選手権大会②	37	56	697	547		1337	澤田杯棒高跳競技会を中心に、中学男女各4種目、一般高校男女各7種目、共通男子110mJH、女子100mYHを実施した。
4	4月24日 (日)	長良川	第44回ぎふスポーツカーニバル	42	55	400	1116	391	2004	小学生男女各4種目 (リレー含む)、中学男女各5種目 (リレー含む)、一般高校男女リレー各2種目で実施した。
※	5月 7日 (土) 5月 8日 (日)	長良川	中部実業団対抗陸上							
※	5月15日 (日)	長良川	高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン							
※	5月20日 (金) 5月21日 (土) 5月22日 (日)	長良川	第64回岐阜県高等学校総合体育大会 陸上競技の部 兼全国:東海高等学校総合体育大会岐阜県予選会							
5	5月28日 (土) 5月29日 (日)	浅中	第45回岐阜県中学生学年別陸上競技大会 兼第43回全日本中学陸上競技選手権大会予選会 (四種競技)				男1277 女1216		2493	1年生男女各4種目、2年生男女各2種目、3年生男女各2種目、2・3年男子10種目 (四種競技含む)、女子7種目 (四種競技を含む)、共通男女リレーで実施した。
※	6月 5日 (日)	長良川	岐阜県障がい者大会							
※	6月 5日 (日)	星ヶ台	東海マスターズ・岐阜マスターズ陸上							
6	6月12日 (日)	浅中	第1回岐阜県小学生陸上競技選手権大会					男462 女486	948	新設の選手権大会として男女各13種目 (リレー含む) を実施し、各種目における決勝進出チーム・個人に岐阜県選手権への出場権を付与した。
※	6月17日 (金) 6月18日 (土) 6月19日 (日)	長良川	第63回東海高等学校総合体育大会 兼第69回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 東海地区予選会							
7	6月25日 (土) 7月 2日 (土) 7月 3日 (日)	長良川	第81回記念岐阜県陸上競技選手権大会 兼第59回東海陸上競技選手権大会予選会 兼第71回岩手国体選手権大会③	139	158	971	41	179	1488	東海選手権予選及び国体選考を兼ねて男女各22種目 (リレー含む)、国体選考少年種目男女各2種目、および小学生選手権決勝進出者男女各13種目 (リレーを含む) を招待して実施した。初日には定通制高校総体を同時開催した。

No.	期 日	場 所	事 業 名	規模(参加者数)						事 業 内 容
				一般	大学	高校	中学	小学	計	
8	7月 9日(土) 7月10日(日)	長良川	第62回全日本中学校通信陸上競技岐阜県大会 兼第43回全日本中学校陸上競技選手権大会予選会 兼第71回和歌山国体選手選考会④ 兼岐阜陸協100m記録会				男1286 女1228		2514	全国大会出場標準記録突破を目指して、男子16種目、女子12種目で実施した。 2日目午後からは100m記録会を実施した。
9	7月17日(日)	長良川	第32回全国小学生陸上競技交流大会岐阜県予選会 第34回岐阜県陸上スポーツ少年団・小学生文軟陸上競技大会 兼第19回全国小学生クロスカントリー大会選手選考会					男615 女612	1227	全国大会岐阜県代表を目指して男女各7種目で実施した。 スポーツ少年団文軟陸上男女各10種目を併せて実施した。
10	7月23日(土)	長良川	岐阜陸協普及記録会②	48	60	691	302	130	1231	今年度2回目の普及記録会を実施した。 一般種目には他県登録者のエントリーも多く見られた。
※	7月24日(日)	長良川	第57回岐阜県中学校総合体育大会 陸上競技							
11	8月 6日(土)	長良川	岐阜陸協強化記録会 兼第71回岩手国体選手選考会⑤	45	82	944	43		1114	岩手国体の最終選考会をかねて、 男子12種目+少年B3種目、女子11種目+少年B5種目で実施した。
※	8月21日(日)	長良川	西日本薬大会							
12	9月 3日(土)	中池	第20回岐阜県ジュニア陸上競技大会				男827 女761		1588	ジュニアオリンピックへの選手選考を含み 各学年と共通の4種別男女各16種目を実施した。
13	9月 4日(日)	中津川	第40回岐阜県秋季陸上競技大会	49	8	584	48		689	例年通り中津川で男子14種目、女子13種目を実施した。
※	9月17日(土) 9月18日(日)	長良川	第45回岐阜県高等学校新人陸上競技対校選手権大会							
※	9月25日(日)	中池	県民杯 [®] 大会							
14	10月 1日(土)	長良川	第46回岐阜県中学生新人陸上競技大会				男804 女795		1599	1年、2年男子各4種目、1年、2年女子各4種目、共通男子7種目(リレー含む)、 女子5種目(リレー含む)で実施した。
※	10月 2日(日)	長良川	特別支援学校 チャレンジ陸上							
※	10月 9日(日) 10月10日(月)	長良川	第43回東海学生陸上競技秋季選手権大会							
※	10月15日(土)	星ヶ台	中部実業団選手権 多治見フェスティバル							
15	10月16日(日)	県庁～羽島	第8回ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会						27チーム	第8回都市対抗駅伝として、岐阜県庁～羽島文化センター折り返し2往復で実施した。
16	11月 3日(木)	長良川	岐阜県秋季陸上競技記録会	43	61	651	1537	521	2813	新設の記録会として実施。 予想を上回る参加者数であったため、男女100mと三段跳を補助競技場にて実施した。
※	11月 6日(日)	県庁～羽島	男子第67回・女子第28回岐阜県高等学校駅伝競走大会 兼東海・全国高等学校駅伝競走大会予選会							
※	11月12日(土)	山県市	第25回岐阜県中学校駅伝競走大会							
17	11月20日(日)	中津川～多治見	第63回中山道東濃駅伝競走大会 兼第4回岐阜県駅伝競走選手権大会	→A11+OP4チーム →B6チーム		男5チーム 女5チーム	男6+ OP1チーム 女6+ OP1チーム			第4回岐阜県駅伝競走大会を実施した。
※	11月27日(日)	県庁～羽島	男子第65回・女子第27回東海高等学校駅伝競走大会							
18	12月 3日(土)	長良川	岐阜陸協長距離記録会 兼全国都道府県対抗駅伝大会選手選考会	26	3	213	216		458	長距離記録会(男子3種目、女子3種目)、 同時に男女中学生の全国都道府県駅伝の代表を決定する最終選考会を実施した。
19	12月17日(土)	長良川	第67回朝日月例長距離競走大会(第一次)	39		202	55		296	男女各3000m、5000mの2種目を一次大会として実施予定。
20	1月28日(土)	長良川	第67回朝日月例長距離競走大会(第二次)	114		273	115		502	男女各3000m、5000mの2種目を二次大会として実施予定。

※印は共催・運営協力等

(委員長 日下部 光)

強化委員会

「岐阜システム」の構築に向けて

岩手国体に向けて1年の時間をかけて取り組んで参りました。天皇杯56点(15位)皇后杯37点(14位)という結果となりました。目標はあくまでも8位入賞、70点の獲得でした。少年、成年ともに戦略を練り、課題を設定し、高い意識付けを行っていきました。十分に70点は超えられる状態で本番を迎えてくれたように思います。その中でも少年組が優勝、準優勝、3位入賞という上位を獲得し、チームへの勢いと強化の成果が出せたように感じました。女子少年B100m 優勝井戸アビゲイル風果(美濃加茂西中)。全中、国体、ジュニアでの4連続の優勝は岐阜の宝ともなったように感じます。少年B砲丸投 準優勝山下航生(市立岐阜商業)1年前の全中では力を全く出し切れず、悔しい思いをしてからの1年という準備期間を得て、心の準備を行った成果でもありました。女子少年A100m 伊藤有那(県岐阜商業)全中優勝、国体少年B優勝、そしてインターハイ準優勝という、実績を持ち、今回も優勝を狙っての大会ではありましたが、惜しくも3位という結果からも悔しい思いもしましたが、やりきった大会でもあったように感じます。

残念ながら期待もしながら力を出し切れなかった、成年達への指導や支援が今回の課題ともなりました。今回の少年達の成果

からも、「世代間の連携」の大切さを痛切に感じました。中学で育った選手が高校でより成果を出し、全国のトップで活躍する。まさにこの3人はこの成果だと思います。

11月「小・中・高・大の岐阜システムの確立」～岐阜で育てた選手を世界へ～と言う大きな目標を掲げました。「毎年国体70点をとれるチームづくり」「全中、インターハイで各10種目の入賞」という段階的な強化目標をたて、その実現のために小さな段階的な目標、そして個人の具体目標、月毎の達成目標、毎日の実践事項など大きな目標達成のための分析からの実践を継続させ、それを結果として残していきたいと考えています。今年度の全中、インターハイ、そして国体がその成果が問われる重要なものであると強く感じております。

成果を残すためにはやはり指導者の意識改革がなければ、選手が育つはずがありません。まずは我々指導に携わるものが、自分を変える。「主体変容」自分が変わらねば、相手が変わるはずがない。そんな思いで過去のものだけにこだわらず、新しい考えやよりよい物。そしてまずは自分自身の毎日の実践事項を変化させ、常に振り返りながら、取り組むことが必要だと訴えかけてきました。指導者のレベルのアップが選手のレベルアップにつながる。その根底、土台となるものが心であり、生活であり仲間であると考え

ます。大きな土台を築きながら、より高い身体や技能を求めていく必要があるように思います。こんな思いを各世代の指導者が身につけ、選手の指導にあたることが確実な強化につながると考えます。

これが「岐阜システムの構築」です。よろしくお願いいたします。
(委員長 森 光弘)

普及委員会

平成28年度の小中学生の全国大会の結果は、全国中学生総合体育大会において、4つの入賞(うち1種目が優勝)、ジュニアオリンピックにおいても3つの入賞(うち1種目が優勝)。全国小学生クロスカントリーリレー研修大会において、清流ランニングクラブが過去最高の6位に入賞する結果を収めることができました。

昨年度同様に全国規模の大会において岐阜県勢の活躍につながることができました。しかし一方で、全国中学生総合体育大会の出場者数や入賞者総数は減少しており、今後のさらなる活動の充実を図っていかなくてはならないと考えています。

成果の要因の一つとして考えられるのは、例年通り、小・中学生の全国大会出場および入賞を目標とした選手を対象にした合宿や練習会を、計画的に継続して行うことができたからだと思います。また、目標設定を通して、日常生活と競技力向上を結びつけた指導の充実を図ることが、大きな大会で自分自身の持つ力を確実に発揮することにつながっていったからだと思います。

今年度、日本陸連主催の中学生向け指導者を対象とした指導者講習会を開催しました。改めて基本に返って指導をしていくことの大切さを学ぶことができました。各地区ごとにおける練習会や陸上教室、記録会を開催していく中で確実に広めていきたいと思ひます。さらに多くの小中学生に、より速く走ったり、より遠くに跳んだり、投げたりする楽しさを広めつつ、初心者から上級者まで競技レベルに応じた練習、各種目ごとの技術力向上を目指した専門練習を行っていききたいと思ひます。また、練習の成果を発揮できる陸上競技大会の充実も図っていききたいと思ひます。陸上競技に触れ合うことのできる場を多く計画し、運営をしていくことで、優秀な選手のさらなる競技力向上に努めていききたいと思ひます。

そして将来、この中から日本・世界のトップアスリートが生まれてくることにつながっていくことを期待しています。

(委員長 久川 直之)

駅伝・道路競技委員会

『ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会が盛大に開催』

第8回ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会は、10月16日に県庁を発着点に、距離が42.195キロから32.4キロに、区間も12区間から9区間に短縮され実施されました。

大会当日は、絶好の駅伝日和で大変多くの駅伝ファンが見守る中、21市6郡の27チームが出場し、土岐市チームが第1区から第9区までの全区間でトップを維持し、3区間で区間賞を獲得して、2位に3分27秒の大差で他チームを全く寄せつけずに初優勝を飾りました。また、今年から新設された郡の部では、揖斐川郡が総合で13位に入り、郡の部優勝をしました。

今年初めてテレビカメラによる実況中継があり、移動カメラ2台と各中継所の固定カメラにより、大会の熱戦が放送されました。岐

阜県中に郡市対抗駅伝の意識が広まり、今後も実況放送を続けて欲しいと願ひます。

開会式・レセプションは素晴らしい雰囲気の中で、参加した各チームは大会に臨む姿勢を力強く宣誓していました。

閉会式においても、会場が広く、全チームが参加して開催され、大会終了の場にふさわしい内容でした。

大会が盛大に実施できたのも、主催者、協賛者、中継所役員、走路員、自主走路員など関係者及びボランティアの方々、多くの皆さんの協力の賜物であると同時に、感謝とお礼を申し上げます。



(委員長 馬場 保)

記録・情報処理委員会

平成28年度は新しいことにチャレンジした年でした。新しいことにチャレンジする時はうまくいくことばかりではありませんが、それでも挫けず、一生懸命にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。来年度は、アジアジュニアに向けて基本に立ち返り、ミスのない競技会運営に努めていきたいと思ひます。また、人材育成にも努めていきたいと思ひます。引き続きご協力をお願いします。

〈平成29年度活動内容〉

①記録の公認申請100%

- ・競技会終了後30日以内の申請を徹底
- ・電子申請の競技会を増やす

②ホームページを活用した新しい情報提供サービスの開始

- ・年度途中でのランキング発表(県選手権前、国体前など)
- ・記録ページの充実

③地区レベルでの情報機器活用促進・人材育成

- ・競技会運営研修、事前準備・公認申請データ作成研修

(委員長 山下 和行)

施設用器具委員会

平成28年度総括

平成28年度は次の3箇所の検定を行いました。

1. いびがわマラソン(フル、ハーフ)

9月3日～4日検定(公認番号9527)

2. 多治見市星ヶ台陸上競技場(第2種)

9月22～23日検定(公認番号9270)

3. 岐阜経済大学陸上競技場(第4種)

10月12日検定(公認番号8940)

いびがわマラソンについては日本陸連本部から国際計測員である刈込英昭検定員(A級)、愛知県より桑原義貴検定員(B級)及び松田(C級)の3名で計測を行いました。

早朝の交通量が少なく、涼しい時間帯を選びスタートしましたが、真夏の暑さのピークは過ぎたとはいえ9月はまだまだ暑く、しかも20kmほど続く登り坂で大変な思いをしました。揖斐川町役場の皆さんをはじめ、サポートしていただきました関係者のおかげで無事に事故もなく検定が終了することができました。

いびがわマラソンは市民ランナーにとって全国的にも知名度の高い大会であり、検定中にも大勢のランナーが走っている姿を見かけ、人気の高さがうかがえました。

多治見市星ヶ台陸上競技場は日本陸連本部より高沼正利検定員を招き検定を行いました。表面の劣化が激しく15年ぶりの全面改修を行い大変きれいな競技場となりました。また、岐阜県内初となるIAAF仕様のマーキングとなり、(クラス1、クラス2公認は1種に限るためIAAF未公認)初めて見る人にとっては戸惑いもあると思います。

岐阜経済大学陸上競技場は走り幅跳びの練習用走路を増設しました。但し、規格に合わないため練習用としての使用を目的とし、試合での使用は認められず公認記録とはなりませんのでご注意ください。

昨年11月26日～27日、横浜市にて全国検定員会議に出席し、検定業務に関して研修を受けてきました。平成29年度より検定員として競技場及び長距離競走路等の検定業務に携わるようになりますのでよろしくお願い致します。



(委員長 松田 哲明)

女性委員会

女性委員会の主な活動は託児室の開設です。小さいお子さんがいて、審判依頼があってもなかなか出席できないのではないかとということで平成25年度より始まりました。28年度は5競技会8回開室しました。すべての日に託児依頼があり、託児室は子どもたちにとって憩いの場となっています。のべ人数にして男児26人、女児20人のお子さんを預かりました。27年度より1回平均2.4人から3.3人と増えました。有資格者の保育士さん、学生ボランティアの皆さんがとても上手に子どもたちへ対応していただけたので、子ど

もたちも安心して楽しく過ごすことができました。保護者の方も審判の空き時間に子どもさんの様子をみに来られて、安心して再度審判に行かれました。女性審判員の子どものみだけでなく、男性審判員からの依頼もあり皆さんのお役に立てたのではないかと思います。

審判員の子どものみだけでなく、岐阜県登録で競技会参加選手からの依頼にも対応していきたいと考えています。ママさん選手誕生を期待しています。

小さいお子さんがいて競技会から離れているという方も多くみえると思いますが、親子共々陸上競技を楽しむつもりで参加していただけたといいのではないかと思います。

今、女性審判員が少ないのが現状です。陸上競技に興味がある女性が多く参加できるような方法がないかと考えています。そのひとつの活動が託児室の開設です。また皆さんのご意見を取り入れていきたいとも考えています。



(委員長 浅野 美津子)

医事委員会

活動報告と今後の課題

平成27年度から活動を開始し、2年目を迎えた本委員会は、トレーナーの活動報告やテーピングなどの必要経費の確保もあり、充実した活動の中、シーズンを終えることができました。これも、関係各位のご理解とご協力の賜であると感謝しております。

今年度も活動は、協議会へのドクター・看護師派遣と競技会におけるトレーナールーム開設を行ってきました。6月の高校総体は、「トレーナールーム」開設のみでしたが、7月の岐阜県陸上競技選手権大会においては、「トレーナールーム」開設と「スタジアム救護」活動を行いました。両大会ともに、コンディショニング調整・肉離れなどの障害対応のみならず、長距離種目における熱中症への対策も行い、有意義な活動を行うことができました。

また、5月に日本陸上競技連盟主催の全国医務部長会議へ参加しました。3月には、「トレーナーセミナー」への参加(3名)を予定しています。

今年度は、医事委員会としての予算確保もいただき、組織的に活動することができ感謝しております。課題は、医事委員会の根幹に関わるものですが、ドーピング問題やマラソン時の救急搬送体制について、より専門的な観点から活動を考える必要があると思います。本質的な問題も多くありますが、岐阜陸上競技協会のため、陸上競技選手のために活動していきたいと考えておりますので、更なるご支援とご協力をお願いいたします。

(委員長 河島 正弘)

広報委員会

1.平成28年度事業

広報誌2号発刊

広報誌3号発刊

70周年記念事業に合わせ28年度前期号(7月上旬発刊完了)

広報誌4号発刊

28年度後期号(4月下旬発刊予定)

2.活動報告

広報誌2号・3号発刊と陸協70周年記念誌準備作業関係について

※広報委員会として記念誌パンフ・葉等の作成担当

1月17日(日) 2号・3号発刊編集会議(雪印ビュッフェ19:00～)
 1月28日(木) 2号原稿依頼発送
 2月18日(木) 原稿締め切り
 2月21日(日) 2号第1回校正会議(雪印ビュッフェ19:00～)
 3月11日(金) 2号第2回校正会議(雪印ビュッフェ19:00～)
 4月4日(月) 2号原稿入稿
 4月14日(木) 編集委員へ2号原稿配布・第2回校正作業
 4月18日(月) 2号校正原稿入稿
 4月19日(火) 2号最終校正・入稿(ビリオン・則武19:00～)
 4月23日(土) 3号原稿依頼発送
 5月4日(水) 2号発送業務(雪印ビュッフェ19:00～)
 5月5日(木) 2号郵送分発送
 5月7日(土)8日(日) 2号配布
 5月23日(月) 3号原稿締め切り
 5月31日(火) 3号第1回校正会議・入稿(ビリオン・則武19:00～)
 6月14日(火) 3号第2回校正会議・入稿(ビリオン・則武19:00～)
 6月17日(金) 2号発刊反省会議
 6月29日(水) 3号発送業務(雪印ビュッフェ19:00～)
 6月30日(木) 3号郵送分発送
 7月2日(土)3日(日) 3号配布
 9月24日(土) 広報誌岐阜陸協HP閲覧開始準備打ち合わせ(サムシング18:00)
 11月30日(水) 広報委員会中間総括提出(各委員データ配信確認)
 1月25日(水) 広報委員会総括会議・4号企画会議
 2月23日(木) 4号原稿依頼発送
 3月13日(月) 4号原稿締め切り
 3月16日(木) 4号第1回校正会議(らんぷ・北一色19:00～)
 3月中旬 4号第2回校正会議
 3月下旬 4号第3回校正会議・入稿
 4月中旬 4号発刊作業
 4月中・下旬 4号郵送・協議会発送
 5月下旬 4号総括

発刊部数／2号・500部、3号・550部(4号・550部予定)

配布先／県内…陸協役員・一般会員・県体協・地区体協
 郡市体協・スポーツ課・県高体連・県中体連
 警察関係・その他
 県外…日本陸連・都道府県陸協・都道府県高体連
 都道府県中体連・新聞社・放送局
 関係企業・その他
 各パナー広告企業

3.活動予定と課題

4号発刊に向けて

- ①年度総括・70周年記念事業関係・アジアジュニア大会情報を中心とする
- ②岐阜陸協ホームページでの広報誌閲覧の実現に向けて、関係部署との連携と検討・実施

(委員長 木下 克己)

各地区陸協報告

岐阜地区陸上競技協会

平成28年度の小学・中学・一般陸上競技記録会は一般高校は276名中学生476名、小学生154名、計909名の参加で9月10日(土)長良川競技場で開催されました。

岐阜地区陸上競技記録会大会要項を岐阜地区の96校の小中学校の校長先生宛に会長名で依頼しましたが、結果は小学生地区の陸上スポーツ少年団所属の小学生のみでした。小学生選手権大会が岐阜陸協でも開催されますが小学校の校長先生の陸上競技に対する理解を深める努力を今後とも一層しなければ陸上競技大会に参加する小学生の大幅な増加は望めなく各小学校に対する働きかけをする必要があると感じました。

平成29年度は8月19日(土)長良川競技場で第1回岐阜地区陸上競技選手権大会・兼小学・中学・高校一般記録会として開催予定です。諸先輩の皆様のご積年の課題でありました、岐阜地区陸上競技選手権大会を種目数は限られてきますが開催できますことは岐阜地区陸上競技協会としても一歩踏み出し他地区と肩を並べることとなり、今後全種目の開催に向けて一歩一歩前進していきます。

(理事長 小森 博昭)

東濃地区陸上競技協会

第17回中部実業団陸上競技選手権大会

兼多治見フェスティバル

前号(第3号)にてこの大会の経緯や意義等について報告しましたが、今回は多治見市星ヶ台競技場が改装され、こけら落としとして見出しの大会が2016年10月15日(土)に開催されたので、この大会に関した内容を報告することとしました。

星ヶ台競技場は昨年6月5日(日)の東海マスターズ・岐阜マスターズ大会を終えて、第2種公認競技場の申請に向けての改修に入りました。改修から検定までの4か月間は中津川公園競技場での大会開催が続き、中津川市や東濃東部の競技役員には何かとお世話になったと感謝しています。

さて、今回は改修後のこけら落としの大会ということもあり、東濃地区陸上競技協会、中部実業団競技連盟として大会を盛り上げる内容について協議し、大会の開催に向け今までの大会にない以下の内容を取り入れました。

- 1.中部実業団陸上競技連盟としては大会へより高いレベルの選手に多く参加してもらえるように働きかけました。その結果、全日本選手権優勝者、上位入賞者あるいは全日本実業団選手権大会優勝者、上位入賞者など、多くの全日本で活躍している選手たちの参加を得ることができました。
- 2.東濃地区陸上競技協会としては高木会長のお骨折りでス

ボンサーを発掘し、大会優秀競技者にMVP賞として男女各1名に賞金25万円を授与します。

3.中部実業団として敢闘賞を男女各2名に各5万円を授与します。

こうして当日の大会を迎えたが、素晴らしい好天に恵まれ、改装された星ヶ台競技場が一段と素晴らしく見えました。開会式前のウォーミングアップ中の選手の何人かにトラックの感触を聞いてみました。ほとんどの選手が「適度の弾力があり非常に走りやすい。」との感想を述べていました。また、ある選手は「とても走りやすく、いつまでも走っていたい気持ちです。」と感想を述べてくれました。

競技が始まり、種目が進んでいくとともに全日本の上位にランクされる記録、大会新記録が続々アナウンスされとても活気づきました。全種目が終了した時点で実に20の大会新記録が記録されました。

そして、閉会式ではMVP賞として男女各1名が25万円の賞金目録を満面の笑みで受け取り、また、敢闘賞の男女各2名も喜びと同時に次への挑戦を誓っていました。こうして大成功裏に大会が終了し、地域の中学生、高校生にとっても例年よりさらに多くの優秀選手を間近に見られ、本大会の目的でもある、一流の選手のすごさを肌で感じることや、一流の競技者のレースを観戦し、夢を持つことなどが達成されたことと喜んでいました。

(理事長 安藤 功二)

西濃地区陸上競技協会

1.事業報告

平成28年度後期の主な事業として、競技力の向上と地域の活性化を目指し以下の大会を主管し実施いたしました。

- A…2016揖斐川マラソン 11月13日(日)
参加者／約10,200名
- B…大垣マラソン2016 12月11日(日)
参加者／約4,900名
- C…第38回中日西濃駅伝 2月19日(日)
参加チーム／230チーム

2.結び

大会を運営するにあたり、大勢のランナーに安全で楽しく走ってもらうためには、競技役員等の役割は大きく重要性は言うまでもありません。しかし最近では高齢化が進んでおり、その確保に苦慮しているのは我々の地区のみではないと聞いていますが、これを解消するには県陸協を筆頭に、各地区陸協が協力していくことが必要だと思いますがいかがでしょうか？



(理事長 牧野 安孝)

中濃地区陸上競技協会

H28年度活動総括

今年度に計画した競技大会は、好天にも恵まれて順調に終えることができました。

美濃地区と可茂地区の合同記録会を2度開催でき、それぞれの競技力を高めることができました。また、可茂地区が担当となった県民スポーツ大会も、美濃地区の協力を得て中池公園陸上競技場で無事に開始できました。

小学生、中学生を対象とした普及事業を開催して、選手の育成および指導者の養成ができました。今後、よりいっそうの選手強化をしていきたいと思ひます。

○H28年度の活動

H28年6月15日に脇田審判長のご指導を得て、審判伝達講習会を開催しました。

本年度改定されたルールについて、講義をいただきました。また、前年度の大会で問題となった判定等について対処法を受講し、審判員のスキルアップを図りました。

○中濃大会の開催

H28年6月26日に中濃地区陸上競技大会(美濃地区3市対抗)を開催するとともに、小学生から中学生、高校生、一般を対象にした記録会を開催し、選手のレベルアップを図りました。

○ナイター記録会の開催

7月23日と8月27日に中濃地区の選手を中心として、県内外の選手が参加したナイター記録会を開催し、昨年を大きく上回る350数名の選手に参加していただき、成功裏に終えることができました。

○中濃地区ジュニア記録会の開催

今年は県ジュニア大会が中止になったので、9月に小学生の練習成果の発表の場として大会を企画したところ、延べ500数名の選手が参加してくれました。普段は全天候の競技場で走ったり、跳んだりすることはできないので、小学生にとっては勝手の違う競技会になったかもしれませんが、地区のレベルアップに繋がる好記録が出ました。来年度はジュニア選手権として、優秀選手の表彰などを行っていきたいと思っています。

○中濃駅伝大会の開催

H29年2月5日に第31回中濃駅伝大会を、中池公園周回コースで雨天の悪コンディションの中、中学生、高校生、一般から46チームの参加を得て開催しました。

今後の課題対策

昨今の交通事情のため公道を走ることが難しくなっていますが、12月4日に県百年公園内で県内の特別支援学校対抗駅伝大会を、交通規制を気にすることなく開催することができました。これを機に公園内に、いつでもロード練習や駅伝大会ができるように県等の関係機関に働きかけ、施設の充実を図っていきたいと思っています。

H29年度は中池公園陸上競技場の管理棟改修工事に伴い競技会が開催できませんが、洞戸運動公園等を使ってレベルアップの練習を行い、小学生から一般の選手が県大会等で活躍できるように地区として支援していきます。

H30年3月には中池公園陸上競技場に、スタンド付きの管理棟が新設されます。県内外の選手の皆さんに大いに使用していただきますようご案内します。よろしくお願いします。

(理事長 上野 悟一郎)

飛騨地区陸上競技協会

【平成28年度会議報告】

○1月9日(土)

部長・副部長会議

- 平成28年度競技日程、各部の運営計画検討・立案

○1月24日(日)

第4回:理事会 懇親会

- 部長・副部長会での決定事項について審議・決定

○3月19日(土)

飛騨地区陸上競技協会代議員会(高山市、飛騨市、下呂市)

- 理事会決定事項の伝達・審議・決定

【活動報告】

※各競技会に向けてのプログラム編成会議(約2週間前)

※「審判出務希望調査」(前期・後期)

月	期日	曜日	大会・競技会名	会場
4	9	土	飛騨地区陸上スポーツ少年団指導者懇談会	ビッグアリーナ
5	3~4	火・水	第39回:飛騨春季記録会 兼県高校総体飛騨地区予選会	中山陸上競技場
	3	火	『飛騨地区陸上競技協会:50周年記念式典』 B級公認審判員資格取得講習会(講師:脇田篤実氏)	
	4	水	各種栄章者表彰式 第1回:理事会	
6	4・5	土・日	各地区の陸上競技大会(高山市、飛騨市、下呂市)	各地区の会場
	18	土	第45回:飛騨地区中学総体陸上競技大会	中山陸上競技場
7	10	日	第64回:飛騨地区体育大会陸上競技大会 第22回:飛騨地区スポーツ少年団交流会	中山陸上競技場
	16	土	第66回:飛騨地区高校総体陸上競技大会	中山陸上競技場
9	3	土	第1回:飛騨地区陸上スポーツ少年団記録会	中山陸上競技場
	4	日	第48回:飛騨地区陸上競技選手権大会 第2回:理事会	中山陸上競技場
	22	木(祝)	第2回:飛騨御嶽ハーフマラソン大会	飛騨御嶽高原
10	2	日	第65回男子・第33回女子:飛騨地区高校駅伝競走大会	古川町森林公園
	8	土	第29回:高山市中学駅伝競走大会	中山陸上競技場
	9	日	第38回:飛騨地区秋季陸上競技記録会	中山陸上競技場
	15	土	第24回:飛騨地区中学駅伝競走大会	中山陸上競技場
11	23	日	第12回:高山市民駅伝競走大会	高山市一之宮町
	1	火	第41回:ひだ金山清流マラソン大会	下呂市 金山町
	8	火	『第53回:飛騨駅伝競走大会』監督会議	ビッグアリーナ
12	20	日	第53回:飛騨駅伝競走大会 第3回:理事会	小坂町〜下呂少ヶ野
	23	水(祝)	高山市民健康マラソン大会	中山公園 周辺
	27	日	『益田駅伝競走大会 県 下呂市ジュニア駅伝競走大会』	下呂市飛騨川公園
12	3	土	飛騨地区陸上スポーツ少年団指導者懇談会	ビッグアリーナ

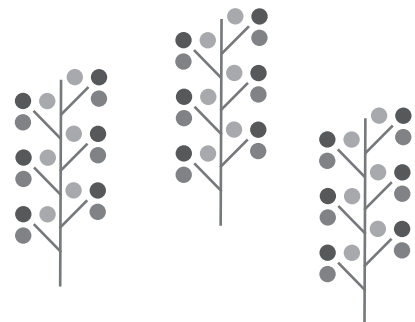
【地区としての特筆事項】

①今年度、飛騨地区陸上競技協会が“50周年”を迎えるということで、藤森昌史飛騨地区陸上競技協会会長を中心とした編集委員会が記念誌の発行に向けて準備を進め、予定通り発行することができました。また平成28年5月3日(火)に中山陸上競技場において、各方面から多数のご来賓をお迎えして、盛大に記念式典を挙行することができました。

②『第2回:飛騨御嶽ハーフマラソン大会』が実施され、その成果を踏まえて来年度「第3回」を実施することに決定し、その準備が進められています。(平成29年3月29日:水 第1回:飛騨×御嶽ハーフマラソン実行委員会開催予定)

③「第8回:ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会」において、飛騨地区の各市代表チームが上位入賞を果たす好成績を収めることができました。

(理事長 新屋 幹男)



関係団体(協力団体)

岐阜県中体連陸上競技専門委員会

【中体連の取組を終え、そして新たな取り組みへ】

1.はじめに

日本一のチームづくりへ

小・中・高・大の「岐阜システム」の確立

平成28年度のトラック&フィールドを終えました。過去12年間の中で一番少ない全中出場者15人、ジュニアオリンピック入賞者3人という結果となりました。「今のままではだめだ、変えていかないと」という強い思いを抱いた森光弘強化委員長をはじめとした中体連強化部は、現状の取り組みに満足することなく、「日本一のチームづくり」を目指して新たな取り組みをスタートさせることを話合いました。

全中出場者やジュニアオリンピックの結果だけを外から眺めれば、岐阜県の規模からすれば健闘しているように見えます。しかし、強化部内には、「全中やジュニアオリンピックの成績低下に加え、国体やインターハイでの苦戦など、将来を考えれば、今、手をつけないと大変なことになる」という危機感が漂っていました。それなりの成果は残してきましたが、何かが違う。このままでいいのか。本当の意味で子どもたちを育て、強化していくためには、まずは自分たちが変わらなければいけないと思うようになりました。土台となる指導理論の確立、大事にしていく教育の徹底。そして、強固な組織づくり。その統一と実践が重要だと感じました。

小学生や地域のクラブ、そして、中学、高校、その先の大学、実業団と続く強化体制におけるつながりや連携、一体感の欠如。次代を担うべき中、高校における若手指導者が育っていないという現実。それらを打破し、前に進むために、「まず強化部を中心に、指導陣が変化し、土台を固める。今日を、その第一歩にしたい」と、岐阜県内で結果を残している指導者の多くが学び実践していた『原田メソッド』の考案者でもある原田隆史氏を招くことで、新たな「チーム岐阜」の強化を図りました。

2.「原田メソッド」の導入

(1)目標の明確化『目的・目標設定用紙』

- 岐阜としてのビジョンを明確に決める必要がある。「チーム岐阜」の目指すべき目標の明確化。
- 個人では、自分の有形・無形、自分以外の有形・無形の4つの観点から夢、目標を描く。
- ★教師が検証するのは記録や結果ではなく、目標に向かって、生徒が日々どのような行動を積み重ねてきたのかが分かるようになる。

(2)メンタルトレーニングの導入

- スポーツ人材育成の大きな柱はメンタルと体力強化である。
- メンタルとは、12の項目(忍耐力・闘争心・自己実現意欲・勝利意欲・自己コントロール能力・リラックス能力・集中力・自

信・決断力・予測力・判断力・協調性)で測定することができる。

- 心理的スキル(目標設定・イメージトレーニング・プラス思考・セルフコントロール・集中力・セルフワーク・本番に対する心理的準備・コミュニケーション)がある。

★メンタルトレーニングを導入することで、パフォーマンスの向上に努める。

(3)組織を再建させる原則

- 再建の三原則(時間を守る・場を清める・礼を正す)

★清掃活動、奉仕活動、エコ活動の推進。

- 4大教育(理念教育・態度教育・価値観教育・職能教育)を推進する。

★生徒の心のコップを上に向け、愛情を注ぎ込む。

(4)個人のやる気を育てる

- 選手の自己効力感(やれる)
- 自己肯定感(自分が大好き)

★日誌に毎日、良かったこと(効力感)と、「ありがとう」の言葉が返ってきた行動(肯定感)を書いていく。これを貯めていくことで、選手の効力感、肯定感を育てることができ、それによって選手は自分に自信を持つことができる。

3.原田隆史先生の講義を終えて

2020年の東京五輪を控えた今だからこそ、小、中、高、大学、そして、実業団が手を組んで本当の意味の「チーム岐阜」をシステム化させていきたいと願ったのが、今回、原田先生に講演を依頼した発端でした。実際に話を聞き、「主体変容」の言葉にもあるように、選手を変えるには、まず自分を変える必要があります。今回、学んだことをすぐに実践していき、熊本全中やジュニアオリンピック、愛媛国体など全国の舞台で活躍できるような選手の育成を目指していきます。

(委員長 吉田 靖)

岐阜県高体連陸上競技専門委員会

東海・全国高校総体について

平成28年度は東海高校総体と東海高校駅伝が本県で開催されました。東海高校総体は全国高校総体の出場権をかけた大会であり、独特な緊張感のある大会です。特別な申し合わせ事項も多くあり、審判員にとって運営面でミスの許されない緊迫したものになります。今大会では厳正な判定と適切な運営をしていただき、抗議もなく無事に終了することができました。県高体連の大会では、初めてTICを設置することができ、監督・選手と円滑なコミュニケーションを図ることもできました。ご協力・ご尽力いただいた岐阜陸協の審判員の方々に、心より感謝いたします。高体連としても顧問が一致団結することができました。また、選手強化においても成果が現れました。この大会で岐阜県勢は、男子11種目16人・女子8種目12人が全国高校総体への出場を決めました。なか

でも男子4×100mRでは、岐阜聖徳学園高校が40秒47の大会新記録で優勝しました。この記録は県高校新記録でもあります。つづく全国高校総体は、7月29日より8月2日まで岡山県総合グラウンドにあるシティライトスタジアムで開催されました。出場選手の記録ランキングは20位以内が男女合わせて8種目あり、上位入賞が狙える選手団となりました。女子100mに出場した伊藤有那さん(県岐阜商)は予選・準決勝を順調に勝ち進み、決勝でも後半の加速力を持ち味とする自分のレースを展開し2位入賞に輝きました。一昨年の長崎国体では少年B女子100mで優勝しましたが、昨年の和歌山IHでは準決勝で敗退しており、今大会で見事に雪辱を果たしました。男子では入賞者は無かったものの、稲福颯君(市岐阜商)が砲丸投に出場し、1年生ながら予選を15m71の好記録で通過し決勝に進出しました。

駅伝大会について

高校駅伝は多くの問題を抱えながらも、県高校駅伝・東海高校駅伝の2大会を例年通り岐阜県庁～羽島市小熊町折返しコースで実施することができました。岐阜陸協審判員の方々には厳正かつ適切な審判運営をしていただき、大きなトラブルもなく無事に終了することができました。また、清流の国推進部・岐阜羽島警察署・岐阜南警察署・毎日新聞社をはじめ多くの関係者の方々に多大なるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。東海高校駅伝では、男子4区と女子1区で大会新記録がマークされたことや、出場チームの多くが各県の予選記録を上回ったことから、コース設定及び運営体制に高評価をいただきました。岐阜県勢では、土岐商業高校女子が23年ぶり2回目の優勝に輝きました。県勢としても13年ぶりであり、豊川高校の10連覇を阻止するものでもありました。全国高校駅伝では、1区加藤優果さんが区間8位、5区中舎朱音さんが区間7位の快走を見せ、平成15年中津商業高校の10位に次ぐ、総合14位となりました。

まとめ

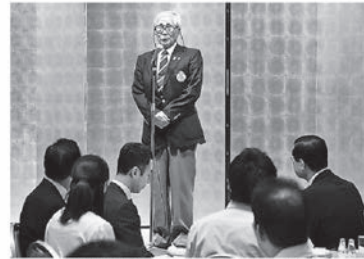
年間を通して本年度特筆すべきことに、日本ユース選手権大会において、男子砲丸投で市立岐阜商業高校の山下航生君が優勝、同じく稲福颯君が2位を獲得したことが挙げられます。岐阜県の高校生選手が全国大会において、一つの種目で1位と2位を独占したことは今までになく、しかも同じ学校の1年生コンビという快挙でした。山下君は日本陸上競技連盟2016-2017オリンピック育成競技者に選ばれ、今年度内に3回実施される日本陸連が主催する強化合宿に参加し、来年7月にケニアのナイロビで行われるU18世界選手権への出場を目指しています。

本年度、皆様方のご支援によりこの様な成果をあげることができました。感謝申し上げるとともに、今後も引き続き多くのご支援をしていただけるよう、高体連陸上競技専門部が一丸となり情熱と活力に満ちた実践を継続していきます。

(委員長 内田 匡俊)

トピックス

岐阜陸上競技協会創立70周年 記念式典開催される



式典であいさつする田口利正会長＝岐阜市長長福光、岐阜都ホテル

同協会は、1946・清流大会の開催に資して、12年にぎふ清流国体人化といった発展を遂げた。近年では20・13年に一般社団法人として、ぎふ清流国体、ぎふ清流ハーフマラソンを成功させてきた。次の10年に向けて、強い選手を育てるべく努力していきたい。など、あいさつした。歴代理事長や功労者、優秀選手などに対しての記念品の贈呈や表彰もあった。祝賀会も開かれ、出席者は歓談し親睦を深めた。

創立70周年、節目祝う
岐阜陸上競技協会が式典
創立70周年を迎えた岐阜陸上競技協会の記念式典が2日、岐阜市長長福光の岐阜都ホテルで行われ、関係者らが節目を祝った。(山本貴史)

※岐阜新聞 平成28年7月3日(日)掲載より



次号紹介

7月上旬発行予定です

編集委員

坂谷 幸紀	原 清隆	山田 緑
河野 康彦	江崎 尚	土屋 雅敏
渡邊 宗治	坂谷 幸紀	